

イラン

民主主義・人権・労働局

2010 年世界の信教の自由に関する報告書

2010 年 11 月 17 日

憲法は、「イスラム教がイランの公式の国教であり、その信奉すべき教義はジャアファリー（十二イマーム）シーア派の教義である。」と定めている。また、憲法は、「他の宗派も十分に尊重すべきである。」と規定し、ゾロアスター教、キリスト教、ユダヤ教の 3 つの前イスラム宗教グループを「保護されるべき」宗教的少数派として認めている。しかしながら、憲法第 4 条は、すべての法律および規則はイスラムの基準に基づかねばならない、と定めている。実際に、政府は、信教の自由を厳しく制限している。

この報告対象期間中、信教の自由の尊重に対するイラン政府の姿勢はどんどん後ろ向きのものとなってきた。政府の言動が、非シーア派の宗教グループすべてに脅威を与える雰囲気を作り出した。それら宗教グループで最も有名なのは、バハーイー教であるが、他にはスーフィーイスラム教、福音主義キリスト教、ユダヤ教社会の人々、政府の宗教的公式見解に賛同しないシーア派などのグループがある。政府による宗教的信条に基づく投獄、嫌がらせ、脅迫および差別の訴えがこの報告対象期間中も続いた。バハーイー教の人々に対する恣意的逮捕および長期拘留、大学からの追放、および資産押収の報告もしばしばあった。また、この報告対象期間中、政府コントロールの放送や印刷報道は、宗教的少数派（特にバハーイー教）を批判するネガティブキャンペーンを強化した。すべての非シーア派の宗教的少数派は、特に雇用、教育、および住居の分野において、様々な公的差別を受けている。

憲法は、キリスト教、ユダヤ教、およびゾロアスター教に（改宗しない限りにおいて）「保護された」宗教的少数派の地位を与えているが、実際には、シーア派イスラム教徒以外の人々は相当の社会的差別を受けており、一部の宗教的少数派にとって脅威を感じる雰囲気が生まれている。政府は、そのような社会的側面を容認するような動きを続けている。

米国政府は、イラン政府が宗教的少数派を威圧的に扱っていることに対して強く反対する姿勢をとり、公式声明、国連や非政府組織（NGO）などの関連組織の努力への支持、ならびに外交的イニシアチブなどを通じてその態度を鮮明にしている。1999 年以来毎年、米国国務長官は、信教の自由の侵害が特に甚だしいイランを、国際信教の自由に関する法律の下で、「特に憂慮すべき国（CPC）」と指定してきた。

セクション I 宗教人口

イランは、636,000 平方マイルの面積と 6,700 万人の人口を持つ国である。人口の 98%がイスラム教徒で、そのうち 89%がシーア派イスラム教徒、9%がスンナ派（主に南西部に住むトルクメンとアラブ、南西部のバルーチ、および北西部のクルド）である。スーフィーイスラム教徒の数に関する正式統計はないが、一部の報告ではイランには 200 万人から 500 万人のスーフィー教徒がいると推定している。

宗教団体の非公式推計によると、バハーイー教徒、ユダヤ教徒、キリスト教徒、サービア・マンダ

教徒、およびゾロアスター教徒が総人口の 2%を占めていると言う。非イスラム教少数派の最大のグループは、バハイー教徒で、その数は 30 万人から 35 万人と言われる。ユダヤ教徒の数は、非公式推計によれば、2 万人～3 万人のあいだと思われる。

国連のデータによると、イランには 30 万人のキリスト教徒がいるが、その大多数はアルメニア系である。アッシリア系のキリスト教徒は、非公式統計によれば、1 万～2 万人であると言う。福音主義宗教グループなどのプロテスタントもいる。国外のキリスト教団体の推計では、イランのプロテスタントキリスト教徒の数は 1 万人に満たないというが、多くのプロテスタントキリスト教徒はその信仰を秘密にしていると言われる。サービア・マンダ教徒の数は 5,000～1 万である。政府は、サービア・マンダ教徒をキリスト教徒と見なしており、彼等も 3 つの認知された宗教的少数派グループの中に含めているが、サービア・マンダ教徒は自分たちをキリスト教徒とはみなしていない。政府の推定では、3 万人から 3 万 5,000 人のゾロアスター教徒（主にペルシャ系少数部族）がいるが、ゾロアスター教徒自身は 6 万の信者がいると主張している。すべての宗教的少数派グループにおいて、メンバーの国外移民の数が増加している兆候が見られるが、移民の原因が宗教上のものなのか、全体的な景気後退に関係するものなのかははっきりしない。

セクション II 信教の自由に対する政府の尊重状況

法的・政治的枠組み

憲法は、「イスラム教がイランの公式の国教であり、その信奉すべき教義はジャアファリー（十二イマーム）シーア派の教義である。」と定めている。すべての法律および規則はシャリーア（イスラム法）の公式解釈と整合性を持たねばならない。憲法はスンニ派にもある程度の宗教的自由を与えているが、政府は、全般的に宗教的自由を厳しく制限している。憲法は、「法律の範囲内で」ゾロアスター教、ユダヤ教、及びキリスト教のみを信仰の自由が保証された宗教的少数派として認めている。しかしながら、これらの認知された宗教的少数派グループの人達は、宗教的信条に基づく政府による投獄、ハラスメント、脅迫、および差別を受けていると訴えている。

イスラム革命の最高指導者であるアリー・ハーメネイ師が、三権構造（立法、行政、および司法）の政権を率いている。最高指導者は直接選挙で選ばれるのではなく、国民に選挙で選ばれた 86 名のイスラム法学者のグループ（専門家会議）によって選ばれる。マジェレス（議会）のすべての行為は、イスラム法と憲法に照らして厳格にチェックされ、すべての選出公職のすべての候補者も非選出の監査評議会の資格審査を受ける。この評議会は、最高指導者に指名された 6 人の聖職者と司法の長が指名しマジェレスの承認を得た 6 人のイスラム法専門家（法学者）から成る。

政府は、次の宗教的祝日を国民の休日と見なす。エイデ・ガディール、タースーアー、アーシューラー、アルバイーン、預言者ムハマッドの昇天日、エマーム・レザー殉教記念日、エマーム・アリー生誕日、預言者ムハマッドの生誕日、イマーム・マーディ生誕日、エイデ・フェトゥル、エマーム・アリー殉教記念日、エマーム・ジャアファル・サード殉教記念日、エイデ・ゴルバーン、およびイスラム新年祭である。

政府は、イスラム教徒の改宗あるいは信仰放棄の権利を認めていない。政府は、イスラム教徒の父を持った子供は、自動的にイスラム教徒と見なす。

非イスラム教徒は、イスラム教徒の中で公然と宗教的表現を行ったり、説教を行ったり、改宗したりすることが出来ず、宗教的出版物の発行にも制約が課される。2008 年 2 月、刑法改訂案が議会上げるために立案された、この改訂案によれば、背教（特にイスラム教からの改宗）には死刑が科されることになる。この改訂法案は 2008 年 9 月にマジェレスを通過し、1 年間の試行期間を設けて施行されることになっていた。2009 年 6 月 23 日、マジェレスの法律・司法委員会は、この改訂規定を刑法より除外するよう勧告したが、この報告対象期間の終わりにおいてもその後の新しい情報は入っていない、以前には、シャリーアの解釈に基づき背教に対する死刑判決が出されたことがあるが、この報告対象期間中には、背教に対して死刑が科されたと言う報告は一つもなかった。

非イスラム教徒がイスラム教徒を改宗させようとすることは非合法である。福音主義派教会のリーダー達は、イスラム教徒に福音を説いたり、イスラム教徒を礼拝に参加させたりしないことを約束する誓約書にサインするよう当局から圧力をかけられた。スンニ派イスラム教徒を除く宗教的小数派の人達は、司法や治安維持に係る公職に就くこと及び公立学校の校長になることが許されない。

公共部門の職への応募者は、イスラム教への忠実度とイスラム教に関する知識に基づき選抜される。ただし、宗教的少数派に属する人達も、バハーイー教徒を除けば、下級の公務員の職に就くことはできる。イスラム教の原則と決まりを守らない公務員は、処罰の対象となる。

憲法は、軍はイスラム的でなければならず、イスラム革命の目的に対し献身的な人物を入隊させなければならないと定めている。しかしながら、実際には、宗教的少数派の人々も兵役を免除されることはない。法は、軍隊で非イスラム教徒がイスラム教徒より上の階級になることを禁じている。宗教的少数派の人々で大学教育を受けたものは、兵役義務の履行中には将校となることが出来るが、キャリアの将校になることは出来ない。

法により、宗教的少数派の人々は選挙で代議士に選ばれることは許されず、政府又は軍の上級職に就くことも認められていない。ただし、例外として、マジュレスの 290 議席のうち 5 議席が宗教的少数派の人に確保されている、この 5 議席のうち、3 議席はキリスト教徒のために確保され、アルメニア系キリスト教徒が 2 議席、アッシリア系キリスト教徒が 1 議席となっている。残る 2 議席は、ユダヤ教徒とゾロアスター教徒に 1 議席ずつ配分される。スンニ派の人々には、とくに割り当て議席は確保されていないが、議員となることは出来る。スンニ派のマジュレス議員は、大きなスンニ派グループ出身のものが選ばれる傾向がある。宗教的少数派の人々にも投票権はあるが、スンニ派も含め大統領になる資格はない。

法制度においては、宗教的少数派の人々は差別を受けている。1991 年の改正イスラム刑法典の第 297 条では、遺族に対する死亡賠償金については、イスラム教徒と非イスラム教徒が、同額のディエー（慰謝料）を受け取ることを認めている。法により、バハーイー教徒の血はモバーフと考えられている。これは刑事免責で血を流すことが出来るということを意味する。

バハーイー教徒をはじめとした憲法で認知されていない宗教グループの信者は、その信仰を自由に実践することが認められていない。政府は、いまだに、バハーイー教徒がその信仰を教示し実践することを禁じている。バハーイー教徒は、政府や軍で指導的地位に就くことを禁じられている。

政府は、バハーイー教徒は背徳者だとみなし、バハーイー教の教義は政治的「セクト」だと定義している。法務省は、バハーイー教徒は、自らバハーイー教徒として名乗らない場合のみ学校への入

学が認められており、強く堂々とした宗教的イデオロギーを持って就学するのが望ましいとしている。公立の学校に通うバハーイー教徒の子供たちがイスラム教へ改宗させようという企てに曝されているという申立てがあった。

2008 年に、政府は、バハーイー教徒の学生に対して入学試験に登録するためにバハーイー教徒ではないと名乗らせるといったそれまでのやり方を改めた。政府は、2007 年にこの条件を一時的に取りやめていたことがある。バハーイー教の教義は人の信条を否定するものではないので、この措置によりバハーイー教徒の国立大学への就学が阻まれることになっていた。法務省は、バハーイー教徒の宗教上の所属が判明した場合は、入学手続き中あるいは学期中のいずれにおいても、退学または放校の処分に付すべきだと述べている。大学志願者は、イスラム教、キリスト教あるいはユダヤ教の神学論の試験に合格しなければならないが、バハーイー教の道義に関する試験は存在していない。

バハーイー教徒は、社会年金制度から排除されている。さらに、バハーイー教徒は、傷害あるいは犯罪の被害に対する賠償要求を常に却下されており、財産の相続権も否定されている。バハーイー教徒の結婚と離婚は正式に認められていないが、政府は結婚証明書の機能を果たす民間の結婚証明を認めている。

政府は、認知された宗教的少数派が、コミュニティセンター、および自己資金による文化、社会、体育あるいは慈善に係る団体を設立するのを認めている。しかし、政府はバハーイー教のコミュニティが正式な集会を行うこと、および管理事務所を持つことを禁じ、そのような機関を閉鎖した。

政府は、男性に認められている多くの権利を女性には与えないように仕組まれたイスラム教の法的解釈を広めている。宗教的所属を問わず性差別が全国的に一般化している。女性は、どの宗教グループに属していても、公共の場ではイスラムの服装着用を忠実に守ることが期待されている。保守的なイスラムの服装に関する規則の執行は折に触れて緩和されてきたが、政府は、「イスラム的でない服装」をいつも抑止してきた。政府の結婚および離婚に関する 12 か条の契約モデルでは、習慣およびイスラム法の伝統的解釈によって女性に与えられる権利を制限している。

信教の自由に対する制限

この報告対象期間中、信教の自由の尊重に対するイラン政府の姿勢はどんどん後ろ向きのものとなってきた。政府の言動が、非シーア派の宗教グループすべてに脅威を与える雰囲気を作り出した。それら宗教グループで最も有名なのは、バハーイー教であるが、他にもスーフィーイスラム教、福音主義キリスト教、ユダヤ教社会の人々、政府の宗教的公式見解に賛同しないシーア派などのグループがある。政府による宗教的信条に基づく投獄、嫌がらせ、脅迫および差別の訴えがこの報告対象期間中も続いた。バハーイー教の人々に対する恣意的逮捕および長期拘留、大学からの追放、および資産押収の報告もしばしばあった。また、この報告対象期間中、政府コントロールの放送や印刷報道は、宗教的少数派（特にバハーイー教）を批判するネガティブキャンペーンを強化した。すべての非シーア派の宗教的少数派は、特に雇用、教育、および住居の分野において、様々な公的差別を受けている。

特に 2009 年 6 月の選挙以来、政府は、非イスラム教の宗教的少数派に対するネガティブキャンペーンを強化した。

イスラム文化指導省（Ershad）および情報・治安省（NOIS）は、宗教活動をしっかりと監視している。公認の宗教的少数派に属する者は、政府に登録することが義務付けられていない。しかし、彼等の社会的、宗教的、文化的イベントや学校などの組織はしっかりと監視されている。この報告対象期間におけるバハーイー教の登録業務は、警察が担当していた。また、政府は、福音主義キリスト教徒グループにも集会の際は参加者リストを作って提出するよう求めている。

政府は、一般に、公認の宗教的少数派が隔離された学校内でその信徒に対して宗教教育を行うことを認めているが、一部のケースではその権利を大幅に制限していた。教育省は、特定のカリキュラム要件を課し、これらの学校を監督した。若干の例外はあるが、このような民間の学校の校長はイスラム教徒でなければならない。公認の宗教的少数派の人々には、就学の義務はない。教育省は、宗教のテキストを含む、授業で使用するすべての教科書の認可を行わなければならない。公認の宗教的少数派は、ペルシャ語以外の言語で宗教的指導を行うことができるが、そのテキストにも当局の承認が必要である。承認の条件として、少数派コミュニティが多額の翻訳費用を負担しなければならないことも時にはある。ただし、アッシリア系キリスト教徒は、自分たちのコミュニティは独自の教科書の作成を認められたと報告している。テキストは、政府の承認後、政府の費用負担で印刷され、アッシリア人コミュニティに配布される。

2009年10月、政府は、一般礼拝を行う最大の教会の牧師に対し、金曜礼拝を止めさせるか、テヘランのキリスト教教会中央集会をすべて取りやめにするかと脅かした。

バハーイー教徒に対する制約は広範に及ぶため、彼らがその信仰を自由に実践しコミュニティとして機能する能力が著しく損なわれている。バハーイー教徒グループは、営業許可や貿易許可の認可や更新を政府は拒否していると訴えている。政府は、バハーイー教徒に対して、その信仰を捨てることと引き換えに虐待からの救済を受けるよう繰り返し迫っている。政府は、バハーイー教徒が国を離れることを阻むことがよくある。

1979年のイスラム革命以来、200人以上のバハーイー教徒が殺され、多くが家宅捜索や資産の押収に遇っている。墓地や聖なる場所が破壊され、少なくとも10の町の小・中学校の学生が侮辱や虐待を受けた。

2010年1月、テヘランの裁判長のアッバス・ジャファーリ・ドラタバーディは、2009年12月のデモで逮捕されたバハーイー教徒はアーシューラー暴動を組織する役割を演じたこと、また抗議運動の写真を外国に送ったことで逮捕されたことなどを公言した。彼等の家から武器・弾薬が発見され差し押さえられた、とも語った。

バハーイー教徒は、その宗教的信条を教示・実践することが出来ず、外国にいる同宗派のグループと関係を持つことも出来ない。バハーイー教の国際本部がイスラエルにおかれていることもあって、バハーイー教徒は、しばしば、「ユダヤ主義のスパイ」として正式に告訴されている。この告発は、バハーイー教徒が、イスラエルの本部と交信したり送金したりしている所を見つけた場合には特に激しいものとなる。

この報告期間中、政府系新聞カイハンにおける一連のネガティブな中傷記事を含め、バハーイー教徒に対する公の攻撃が激化した。このカイハン紙の編集長は、最高指導者ハメネイ師が指名した人

物である。また、国営新聞エテマッド紙をはじめとするいくつかの地方紙もバハーイー教徒を中傷する記事を載せている。それらの記事は、国の治安をかく乱し、外国政府のためにスパイ行為を働くために共に活動するバハーイー教徒とスンニ派サラフィストグループの両方を非難するものである。

公立および私立の大学は、引き続きバハーイー教徒の入学を拒絶したり、退学させたりしている。政府は、2007年には、バハーイー教徒の大学入学を一時的に許可したが、2008年になると、バハーイー教徒の学生の大学入学を拒絶する以前のポリシーに戻した。この方針は、この報告期間中ずっと維持された。公には、政府は、バハーイー教徒が大学で学ぶことは自由としているが、この報告期間中、バハーイー教徒には高等教育を受けさせないという暗黙の方針があると言う報告があった。大学で学ぶ数少ないバハーイー教徒のうち何人かが、この報告期間中、その宗教的信条が知られてしまったため退学処分を受けた。さらに、過去数年にわたって、小学校から高校に通うバハーイー教徒の生徒が、いじめられ、イスラム教への改宗を迫られ、多くの場合信仰を理由に退学させられると言うケースが増えている。

独立とは名ばかりで実際には政府の影響下にある商工会議所連盟や関連組織からの情報を使って、政府は、バハーイー教徒の取引や雇用に関するリストをまとめていると言う報告があった。

多くのスンニ派の人々は、政府が彼等を差別していると訴えている。殆どのスンニ派の人々は、少数部族グループのメンバーであるため、その差別の原因が宗教上のものなのか種族に係るものかを判別することは難しい。スンニ派の人々は、100万人以上の信者がいるにもかかわらずテヘランにスンニ派のモスクがないということも、差別を表す顕著な例だと言っている。スンニ派の指導者は、スンニ派が多数を占める地域においてさえ、スンニ派宗教文学および公立学校での教示が禁止されていると報告している。また、スンニ派は、クルディスタンやフーゼスタン州など、スンニ派が多数を占める州でもスンニ派の人が政府の公職に就いておらず、行政の上級職に就くことができないと言っている。

政府はユダヤ教を宗教的少数派の一つとして認知しているが、ユダヤ教社会は公の差別を受けている。この報告対象期間中、公式声明、メディア報道、出版、および書籍などにおける反ユダヤ主義のプロパガンダを政府は許してきた。政府の反ユダヤ主義のレトリックが、国内のすべてのユダヤ人はシオニズムとイスラエル国家を支持しているという認識が過激派イスラム教徒の中にあることも相まって、ユダヤ人に対する敵対的雰囲気を作り出している。また、言葉による攻撃は、シオニズム、ユダヤ教およびイスラエルの間の境界線をさらに曖昧なものとし、ユダヤ人コミュニティの将来的な安全保障に関する懸念を増している。

マフムード・アフマディネジャード大統領は、敵意に満ちた反イスラエルのキャンペーンを続けている。この報告期間中、大統領は、イスラエルをつぶすと公言してきた。

アフマディネジャード大統領は、ホロコーストの存在と規模についても常に疑問を呈しており、それによってユダヤ人に対する敵対的雰囲気を高めている。2009年9月18日、テヘランで行われたアル・クドウス記念日の集会でのスピーチで、西側は「シオニスト」体制構築の口実としてホロコースト神話を作りだしたのだ、と大統領は述べた。

政府は、反ユダヤ主義のメディアを助成し、放任している。しかし、一部の例外を除き、ユダヤ教の宗教活動に対し、政府が制約を課したり干渉したりすることはほとんどない。政府は、ヘブライ語による授業を許しているが、ヘブライ語の教科書（特に非宗教的教科書）の配布は制限しており、ヘブライ語を教えることを困難なものとしている。さらに、政府は、ユダヤ人学校も、他の学校と同じように、ユダヤ法に反するが、土曜日にも授業を行うよう求めている。

ユダヤ人は、自由に国外を旅行することができるが、国民のイスラエルへの渡航を制限する一般的な規則には従わねばならない。しかし、この規則は強制力を持たない。

サービア・マンダ教のコミュニティも、他の宗教的少数派と同様に、当局のハラスメントや弾圧を受けている。サービア・マンダ教の人は高等教育を受けられないと言うことを政府はしばしば否定している。

イラン国内にいるスーフィー教徒、国外のスーフィー教組織、ならびに多くの人権団体は、スーフィー教徒のコミュニティおよびその信仰の実践に対する政府の抑圧が高まっていることを非常に懸念している。諜報・治安部隊によるスーフィー教の指導者たちに対するハラスメントと威嚇が増加している。スーフィー教グループとフセニヤ（礼拝所）に対する政府の規制が最近さらに大きくなっている。シーア派の聖職者や祈祷リーダーが説教や公式声明でスーフィー教およびその活動を非難していると言う多くの報告がある。

政府は、シーア派の上級宗教指導者達の声明や意見を注意深くモニターしている。聖職者の違法行為と犯罪を調査するために設置された特別聖職者法廷（最高指導者の直接監督下にある）は憲法には規定されておらず、司法制度の外で裁かれる。この法廷は、議論を呼ぶ政治的意見を発表したり、ジャーナリズムなどの非宗教的活動に参加したりする特定の聖職者を訴追するのに使われているとする批判もある。

イラン人シーア派教徒アヤットラー・セイッド・ホセイン・カゼメイニ・ボルデルディは、政府の公式の宗教見解とは違う宗教的意見を発表したため、17人の支持者と共に、投獄された。彼は、すでに11年を刑務所で過ごし、健康を害していると伝えられている。知る限りでは、ボルデルディは、かなり健康状態が悪いにもかかわらず入院することを拒んでいると言う。

2010年初めには、政府は、改革運動家や平和的抗議運動家達をモハレベー（「神への反目」と考えられる）の罪で有罪とし処罰することを始めた。伝えられるところでは、10人以上の人が、モハレベーにより告訴され、有罪とされ死刑判決を受けたと言う。この年、少なくとも3人が処刑された。

シーア派以外の宗教指導者は、虐待や、信仰の実践に対する制約の蔓延があると報告している。また、公立学校でのスンニ派の教示およびスンニ派の宗教文学の禁止も報告されている。クルディスタン、フーゼスタン、スィスタン・バルーチェスタンなどのスンニ派が多数を占める州の住人は、差別や資源の不足を報告しているが、その差別が宗教によるものなのか、種族に基づくものか、あるいはその両方かを判定するのは難しい。

宗教的所属に基づく法律が表現の自由の弾圧のために使用されてきた。独立系の新聞および雑誌が廃刊に追い込まれ、主要な出版業者やジャーナリストが「イスラムの侮辱」あるいは「共和国のイスラム基盤への疑問提起」といった曖昧な罪で投獄されてきた。国内紙の報告によれば、2009年6

月9日に、歌手のモーセン・ナムジュは、欠席裁判で、5年の懲役刑の判決を受けた。その罪は、「イスラムの尊厳を侮辱したこと、聖なるコラーンをばかげた口調で朗唱したこと、および世界的に有名なイスラム教の聖典を侮辱したこと」であった。

2008年10月、ゴムの官憲は、オンラインジャーナリストで聖職者のモジュタバ・ロティフを、聖職ルールのシステムに反対していることで有名なアヤトッラー・モンタザエリによる説教をインターネットに載せたことで逮捕した。この説教は、アフマディネジャード大統領がイランは世界一自由な国であると言ったことを批判するものであった。2008年11月29日、聖職者の為の特別法廷は、4年の懲役と5年間のゴムからの追放の判決を下した。ロティフは、この報告対象期間の終わり時点で、まだ刑務所にいた。

信教の自由の侵害

当局は、常に、イスラム革命に批判的な事をネットに書き込むブロガーを拘束し、嫌がらせを行っている。政府は、ブロガーに対し、そのウェブサイト芸術文化省に届けるよう要求している。2008年11月、有名なイラン系カナダ人のブロガーであるホセイン・デラフシャンが、イランを訪れた際にテヘランで逮捕され、北西部のエビン刑務所に入れられた。人権団体によれば、デラフシャンは、刑務所で精神的・肉体的な虐待を受けていると言う。正式にはまだ起訴されていないが、一部のグループによれば、デラフシャンは、「宗教侮辱」の罪で起訴されるだろうと言うことである。2010年6月23日、テヘラン革命裁判所で、デラフシャンの事件の最初の審理が開かれた。

米国の全国精神行政会（バハーイー教）やその他の代表的な人権団体によると、1979年以降、200名以上のバハーイー教徒が殺害されており、15名の信者が失踪し、おそらく死亡したものであるとのことである。

2010年1月1日以来、少なくとも50人のバハーイー教徒が恣意的逮捕を受けた。3月に全国の7つの町で計14人以上のバハーイー教徒が逮捕された。マルヴダシュト、マシュハド、セムナーン、エスファハーン、シーラーズ、ケルマーンシャー、およびサーリーの7都市である。2010年2月、およそ13人のバハーイー教徒が逮捕され、その内何人かは、投獄された。人権団体によれば、2009年10月から2010年2月中旬までの間に、バハーイー教徒の恣意的逮捕のケースが47件あった。

国外のバハーイー教グループの報告では、この報告対象期間に、政府当局によるバハーイー教徒に対するハラスメントや脅迫の件数は増加したという。

政府は、信仰に基づくバハーイー教徒の投獄・拘束を続けている。政府は彼等を恣意的に逮捕し、刑法第500条（国家反逆罪に関するもの）および第698条（嘘の流布に関するもの）に対する違反で告訴している。釈放しても起訴は取り下げられず、いつでも再逮捕される恐れが残ると言われている。多くの者が、高額な罰金を払うか、保釈金を積むかして釈放される。保釈金の代わりに不動産の権利書を差し出す者もあり、個人的保証証書または労働許可証を差し出す代わりに釈放を勝ち取る者もいる。

この報告対象期間の終わりの時点で、少なくとも45人のバハーイー教徒が信仰を理由として拘束されたままになっていた。政府は、多くの者を決して正式には起訴しないが、保釈金を払う場合のみ釈放した。

3月中旬、サーリーの諜報部隊が、バハーイー教徒のシリル・ホルーヒアンを逮捕した。2008年に、当局は、彼女の夫の店を閉鎖し、彼を逮捕し、国の治安を乱したとして拘置した。9日後に彼は釈放された。

2009年3月に、治安部隊は、バハーイー教徒のプーヤ・テブヤニアンをセムナーンの自宅で逮捕した。当局は彼女の刑を2年半から2年に減刑した。容疑は、宗教に対する宣伝行為、国の治安を乱す行為、及びバハーイー教の教示であった。

2009年1月、マーザンダラーン州ガエムシャフルの治安部隊は、4人のバハーイー教徒を、自宅手入れの上逮捕した。それより前の1月10日に、ガエムシャフルの官憲は、もう一人のバハーイー教徒ペガー・サナイエを逮捕した。彼女は、保釈で1月17日に釈放された。

2009年1月、何人かのバハーイー教徒の女性がキーシュ島で布教活動を行ったことで逮捕されたが、後に釈放されている。

また、2009年1月、テヘランの治安部隊は、5人のバハーイー教徒を逮捕し、エビン刑務所に拘置した。その内、少なくとも一人（シーラーズ出身の女性ネギン・レザエイ）が、この報告対象期間の終わりまでにエビン刑務所から釈放された。

同じく2009年1月、バハーイー教コミュニティの3人の指導者、アデル・ファナイアン、アッバス・ノウラニ、およびザヘール・エスカンダリアンが、セムナーンの自宅でそれぞれ逮捕されたが、後に釈放された。

2008年11月、マーザンダラーン州サーリーで、当局は、2人のバハーイー教徒を、家宅捜索をしてバハーイー教に関する印刷物を押収した後、逮捕した。

また、2008年11月、ガエムシャフルで、1人のバハーイー教徒が逮捕されている。

2008年5月には、エスファハーンのバハーイー教コミュニティの2人の幹部ともう1人が逮捕された。伝えられるところでは、彼等に対する容疑は、過去15年間使ってきた埋葬場所に死体を埋めたことであった。この報告対象期間の終わり時点で、彼等はエスファハーンの刑務所に収監されたままであった。

2008年の3月と5月の間に、バハーイー教コミュニティの7人の指導者が逮捕され拘禁された。ファリバ・カマラバディ、ジャマロッディン・ハーンジャーニ、アフィーフ・ナエイミ、ベフルーズ・タバッコリ、サイド・レザイエ、バヒッド・ティズファーム、およびマフバシ・サベットの7人である。2009年2月、司法スポークスマンは、彼等の罪は、「イスラエルのためのスパイ行為、宗教的尊厳の侮辱、及びイスラム共和国に反逆する宣伝行為」であると発表した。2009年5月、国営メディアが報じたところによると、政府は、死刑に値する「この地に腐敗を広めたこと」を彼等の罪に付け加えた。容疑者の誰も弁護士のアブドルファッター・ソルターニに接触することを許されなかった。2009年6月16日に、治安部隊は、逮捕令状なしにソルターニを逮捕し、未知の場所に連行した。4回の審理を経た後、裁判は2010年6月14日に結審し、6月30日に、裁判所は、各人に対し20年の懲役刑の判決を下した。

2008年3月には、バハーイー教徒のモハマッド・イスマエル・フォロウザンが罪状不明で逮捕されたが、上告は棄却されたと告げられ、1年の懲役刑の判決を受けた。

2008年1月に、アジズ・ポウハムゼー、カムアン・アグダシ、およびファトッラー・ハトブヤバンの3人が拘束されたが、この報告対象期間の終わりまでには釈放された。

2008年1月、プーリヤ・ハビビとシミン・モフターリが、バハーイー教の宣教の容疑で逮捕・拘束されたが、この報告対象期間の終わりの時点で、まだエビン刑務所に拘置されているとのことであった。

1979年の革命の後に、政府が差し押さえた墓地、聖地、歴史的場所、管理センターなどのバハーイー教の多くの資産を政府はまだ保有している。その多くは、すでに破壊されている。バハーイー教徒は、その宗教的伝統により、遺体を埋葬したり祭ったりすることが一般的に禁じられている。

過去、テヘラン、ガエムシャフル、マルヴウダシュト、セムナーン、サーリー、エスファハーンなど国の各所にバハーイー教の墓地があるが、それらは、汚され、損なわれ、何らかの方法でバハーイー教コミュニティから遮断されてきた。

ガエムシャフルのバハーイー教の墓地は、8ヶ月の間に4回も襲撃を受け、2009年1月時点では、ほとんど壊滅状態にあった。目撃者によれば、市当局は夜間にブルドーザーで墓地を破壊したと言う。

2009年1月、政府の作業員がテヘランの墓地に入り、イスラム革命の初期に処刑された人々が政府により埋葬されている「インフィデル」の埋葬地と言われる地区を完全に破壊した。破壊された墓の中には、1980年、1981年、あるいは1984年にバハーイー教の国家統治評議会あるいは地方評議会のメンバーで政府に逮捕されて処刑された人達の墓もあった。

バハーイー教徒の財産権は、一般的に無視されており、政府による執拗な嫌がらせおよび迫害の対象となってきた。政府は、バハーイー教徒の家や会社の手入れを行い、バハーイー教に属する大量の個人資産および商業資産ならびに宗教的資料を押収した。政府は、膨大な数のバハーイー教徒の家屋を押収し、最高指導者ハメネイ師の機関に引き渡してきた。また、政府は、所有者が所有を示す正式な書類を持っている場合でも、バハーイー教の若者向けの授業が行われていた個人の邸宅を差し押さえた。バハーイー教コミュニティの報告によれば、政府によるバハーイー教徒の個人資産の押収は、教育と雇用からバハーイー教徒を締め出すことと共に、バハーイー教コミュニティの経済的基盤を侵食し、生存を脅かすことにつながると言っている。

2009年3月、セムナーンの大学で、経済学部の学生のみヌー・シャーリアリが、バハーイー教徒であるという理由で退学処分を受けた。

国内紙の報道によれば、ケルマン大学は、2009年1月に9人のバハーイー教徒の学生を退学させている。

2008年12月には、マーザンダラーン州ケラルダシットのゴールドシャット大学のイスラム教徒学生

がバハーイー教徒の級友の追放に対する抗議運動を行ったと言う報告があった。

2008年11月には、シャヒード・ベヘシティ大学で宗教的信仰を理由として2人のバハーイー教徒の学生が退学させられた。

当局は、バハーイー教徒の会社を閉鎖させ、ビジネスに規制を課し、民間会社の経営者にはバハーイー教徒の雇員を解雇するよう求めているという報告がある。

2009年10月31日、諜報・治安省（MOIS）の職員がバハーイー教徒のアリー・バクフシ・バズラフカーンの家を検索し、バハーイー教に関係のあるアイテムを押収し、彼を逮捕した。バズラフカーンは、ヤスウジウの前バハーイー教管理グループ（ハデミン）のメンバーであった。バズラフカーンは、コフギールーイエ・ブーイェル＝アフマド州の僻地に5年間追放された末に、30カ月の懲役刑の判決を受けた。

2009年10月12日、MOISの役人が、ソヘイル・ルウハニファードの弟ベフナム・ルウハニファードを、バハーイー教の曲を作り、流布させたとして、逮捕した。二日後、当局は、彼の妻を地元のMOIS事務所に呼び出し、2時間の尋問を行った。彼は10月17日に一度家に電話することを許されたが、それきり、この報告対象期間の末まで、ルウハニファードの家族には彼から何の便りもなく、その消息は未だに不明である。

2009年9月27日には、ヤスドのMOIS職員は、ソヘイル・ルウハニファードの家を検索し、バハーイー教信仰に関連のある所持品や資料を押収した。翌日、ソヘイル・ルウハニファードは呼び出しに応じて地元のMOIS事務所に出席した。当局は彼を尋問した後釈放した。10月19日に再び呼び出され、罪状もなく逮捕された。彼は、この報告対象期間の終わりの時点で、まだ拘留中で、家族との面会も許されていない。

2009年7月23日に、機動隊と治安部隊は、北東部の町ゴナバードで、20人のスーフィー教徒を逮捕した。地元の指導者のホセイン・ザレーヤの逮捕に抗議して集まっていた200人以上のスーフィー教修道僧の中にいた。何人かの修道僧は、機動隊が武力行使を行い、群集を散らそうとして催涙ガスを使った際に負傷した。逮捕された者のほとんどは、2010年5月に鞭打ちの刑あるいは禁固刑の判決を受けた。

2009年3月、ゴナバード修道僧団（スーフィー教の神秘主義セクト）の代表の報告では、当局は、41人の修道僧をその信仰実践の罪でエビン刑務所に収監しているという。この報告対象期間の終わり時点で、その後の進展はない。

2009年2月、主要都市エスファハーンで、スーフィー教の礼拝所の破壊に抗議していた者のうち少なくとも40人のスーフィー教徒が逮捕されたが、その日のうちに釈放された。

同じく2009年2月、当局は、エスファハーンのターケテフウラッドのゴナバード修道僧団の礼拝所をブルドーザーで破壊した。そこにいたスーフィー教徒全員が逮捕され、携帯電話を押収された。スーフィー教の書籍や出版物も破棄された。

2009年1月、ゴナバード修道僧団のスーフィー教徒ジャムシッド・ラークは74回のむち打ちの刑を

受けた。彼は、情報省で受けた虐待を公に抗議して、情報省に対する「名誉棄損」の罪で2006年に起訴されていた。

2008年12月下旬、キーシュ島のゴナバード修道僧団のメンバー6人が当局に逮捕された。書籍などの印刷物、コンピューターなどが押収された。

2008年12月下旬、スーフィー教礼拝所の閉鎖のあと、当局は、キーシュ島のゴナバード修道僧団のメンバー6人以上を罪状もなく逮捕し、彼等の持っていた本やコンピューターなどの機器を押収した。その後の状況は不明である。

2008年11月、ネマトラーヒゴナバード派スーフィー教団のアミール・アリー・モハammad・ラバーフは、「嘘の流布」の罪で、74回鞭打ちの刑、5年の禁固刑、およびバーバクの町からの国内追放の刑の判決を受けた。

2008年10月、エスファハーンのスーフィー派イスラム教徒7人以上とカラージュのスーフィー教徒5人がネマトラーヒゴナバード派スーフィー教団に所属しているとして逮捕された。

キリスト教徒（特に福音派）は、いまだに嫌がらせや厳しい監視の対象となっている。この報告対象期間中、政府は福音派キリスト教徒の活動を厳しく監視し、イスラム教徒が教会施設に立ち入らないよう規制し、教会を閉鎖し、キリスト教の改宗者を逮捕するといった方法によって布教活動の禁止を徹底的に実施した。福音派の信徒は、信徒カードを携帯し、そのコピーを当局に提出しなければならない。礼拝者は、集会センターの外に詰めている当局による身元チェックを受けさせられる。政府は、福音派の礼拝のための集会を日曜日に限定しており、教会の役員は新規信者の許可に当たっては情報・イスラム指導省に報告することが求められている。

2010年4月14日、政府の部隊が、カラージュで、キリスト教牧師のベーナム・イラーニの家を手入れし、カメラ、コンピューター、聖書などの私物を押収した。彼は、2010年6月30日に、保釈で釈放された。

2010年4月11日、政府の部隊が、キリスト教徒の19歳のダニエル・シャーリーを、イスラム侮辱の容疑で逮捕した。シャーリーは、エスファハーンの刑務所に収監されたが、2010年4月14日には両親との面会を許された。彼は、2010年4月24日に保釈で釈放され、審理待ちとなっている。

2010年3月7日、政府役人は、1人のキリスト教改宗者を、自宅拠点の団体活動を始め、キリスト教の教義の宣伝を行っていたとして投獄した。彼は、保釈金を積み、3月16日に釈放された。

2010年2月28日には、キリスト教神父のハーミド・シャーフィイーとその妻のレイハーネー・アガージャリーが中心的都市のエスファハーンで逮捕された。治安部隊は、ペルシャ語の聖書を含む彼等の私物を押収した。この報告対象期間の終わりの時点でも、彼等の消息とその罪状は不明であり、

2010年2月20日、テヘランで、私服の公安官がアルメニア系キリスト教牧師のバヒーク・アブラハミアーンを逮捕した。彼はエビン刑務所に拘禁されている模様である。

2010年2月2日には、国家公安官が、エスファハーン市ケルマーンシャーの福音主義教会の牧師レベンド・ウイルソン・エッサビーを、「イスラム教への転向」の容疑で逮捕した。彼の妻は一度彼と面会出来たが、彼は拷問を受けていたと彼女は言っている。3月29日、彼は保釈で出所した。

2010年1月8日、ファールス州の情報省は、数不明のキリスト教徒と言われる人々を拘束した。尋問で、拘束者たちは、この地域の指導的キリスト教グループの名前を言わされ、更なる逮捕を招くことになった。

2009年12月24日、パクダシットの治安部隊は、自宅での教会集会の手入れを行い、そこに出席していた15人を逮捕した。1月初め、15人全員が、書類にサインするために戻ってくることを条件に釈放された。そして、戻ってきた3人が再逮捕され、3月17日まで拘置されたが、釈放された。

2009年12月17日、公安官が、カラージュのキリスト教礼拝集会の手入れを行い、2人の指導者カームビズ・サーガニーとアリー・ケシバール＝ドゥーストを逮捕した。また、公安官は、聖書とキリスト教関係の書籍を没収した。この報告対象期間の終わりの時点で、何も進展がなかった。

2009年12月16日、マシュハドの革命評議会の命により、公安官が、マシュハドに住むキリスト教徒の女性ハーミデー・ナジャフィーの自宅を搜索し、彼女を逮捕した。官憲によると、彼女は「外国のキリスト教テレビネットワークとの接触」の罪が着せられるであろうとのことであった。3人の公安官は、宗教的アイテムを押収した。ナジャフィーは1月初めに釈放されたが、3か月の自宅軟禁の判決を受け、彼女がキリスト教について語るなら10歳になる娘の親権を失うことになると脅かされた。

2009年の6月から8月にかけて、全国で少なくとも30人のキリスト教徒の逮捕・拘束があった。殆どが、教会集会におけるものであった。全員が2009年9月までに釈放された。

2009年5月、公安官は、カラージュの自宅で聖書研究と礼拝のための集会を開いていた5人のキリスト教転向者が逮捕された。集会が開かれていた家は搜索を受け、何冊かの聖書が没収された。5人は、誰も知らないところに拘置されたらしいが、この報告対象期間の終わりの時点でも、新しい情報は何もない。

同じく2009年5月、当局は、バーンダール・マンシャールで、英国にいる著名な人権活動家のキリスト教徒イラン人の父であるアブドゥール・ザハーラ・バシャヒーを、息子の活動に責任を取るよう警告した後、逮捕した。6日後、彼は釈放された。

又、同じく2009年5月、グローミエーの裁判所は、西アゼルバイジャン州出身のキリスト教学校教師を引退したファテメー・パウキに対する年金手当を認めないとした。パウキは、何度も拘束され、キリスト教グループとのコンタクトを止めることを約束するよう当局から強要された。やはり何年も当局に拘束され、ハラスメントを受けていた彼女の夫は2005年に謎の死を遂げていた。

2009年3月下旬、国内の人権団体によれば、革命法廷は、テヘランのシャール・アラーのペンテコステ派教会（アッシリア系キリスト教徒が所属）を閉鎖した。報告によれば、閉鎖の理由とされているのは、イスラム教からキリスト教への改宗者が「違法活動」を行っていること及び礼拝に教団のメンバーとして「改宗者を受け入れていること」であると言う。

2009年3月、シーラーズの裁判所は、セイェッド・アラヤディン・フセイン、ホマユーン・ショコウヒー、およびセイェッド・アミール・フセイン・ボブ=アンナリの3人のキリスト教転向者に対し、5年執行猶予付き8カ月の懲役刑の判決を下した。判事は、男たちに対し、キリスト教活動を止めること、さもなければ背教者として裁かれることになることと警告した。

2010年5月23日、2人のキリスト教コミュニティのメンバーへの起訴が取り下げられた。2人とは、2009年3月に逮捕されていたマルヤーム・ロスタンポウルとマルジェー・アミリザデー・エスマイラバドである。彼女等はエビン刑務所に入れられたが、そこでは、精神的虐待と適切な医療ケアの欠如があったと言われている。この2人の改宗者は、2009年11月に保釈でなく釈放された。彼女等は背教の容疑で起訴され、2010年4月初めに再審が行われたが、翌月、起訴は取り下げられた。

2009年1月、当局はテヘランで3人のキリスト教徒を逮捕した。ハミーク・ハーチキアン（アルメニア系のキリスト教徒）、ジャマール・ガージョシラーニ（改宗キリスト教徒）、およびナデレー・ジャマリー（同じく改宗キリスト教徒）に3人である。彼等の自宅は搜索され、コンピューターや書籍が没収された。ハーチキアンは起訴されずに1月28日に釈放され、ガージョシラーニとナデレーものちに保釈で釈放された。

2008年10月、キリスト教徒のラムティン・スードマンドが保釈で釈放された。スードマンドは、2008年8月21日に反政府プロパガンダを広く行った容疑で逮捕されていた。

2008年7月、私服の公安官は、エスファハーンのイラン人キリスト教徒アッバス・アミーリとその妻サキネー・ラーナーマーが集会中に自宅を襲った。アミーリとラーナーマーは2人とも襲撃で負傷し、その傷により死んだ。当局は、キリスト教コミュニティが二人の哀悼式を行うことを許可しなかった。

2008年6月、キリスト教転向者のカップルのマカーン・アルヤーとティン・ラッドはテヘランの自宅で捕えられた。当局は、アルヤーを「国家の安全を脅かす活動」で告訴し、ラッドに対しては「イスラム聖教に反する行い」で告発した。当局の役人は、2人を背教の罪で告訴すると脅した。イスラム教から転向しないことを誓う文書に強制的にサインさせられた後に、アルヤーとラッドは保釈で釈放された。2人は、教会から離脱するよう強いられ、アルヤーは、彼の店に対してたびたび行われる襲撃を避けるために、店の正面ウインドーにイスラム指導者の写真を飾るよう圧力をかけられた。

2008年9月の報告では、キリスト教転向者のマフムード・マティン=アザッドとアラージュ・バシラートは、法廷が彼等に対する背教の告訴を却下すると裁定したのち釈放された。2人は、2008年5月にシーラーズで逮捕されていた。

2008年5月に逮捕されたキリスト教転向者のモジャタバー・フセインは、依然として拘禁されたままである。彼の家族は、彼が何処に拘留されているか知らされておらず、面会の要請も拒否されている。

2007年の3人のスンニ派聖職者殺害事件については何も進展がなかった。

強制的改宗

強制的改宗の報告はなかった。

政府役人は、バハーイー教徒に対して、信仰を止めることと引き換えに虐待から解放すると持ちかけているといわれる。また、収監されているバハーイー教徒の場合は、その宗教的所属を撤回することが釈放の前提条件となるとされている。

セクションIII 信教の自由に対する社会の尊重の状況

憲法は、キリスト教、ユダヤ教、およびゾロアスター教に「保護された」宗教的少数派の地位を与えているが、実際には、シーア派イスラム教徒以外の人々は相当の社会的差別を受けており、一部の宗教的少数派にとって脅威を感じる雰囲気が生まれているが、政府は、そのような社会的側面を容認するような動きを続けている。アフマディネジャード大統領の基本方針は、「国の団結」を強固なものとするにあたってイスラム教の重要性を強調しており、政府系のメディアがイスラムカルチャーを強調することにより「サブカルチャーが公のカルチャーに順応出来るようにする」ことを命じている。

アフマディネジャード大統領が2005年8月に就任してから、保守系のメディアは、非イスラム教の宗教的少数派に対するキャンペーンを強化し、政治的・宗教的指導者達は、絶えまなく扇動的な声明を出してきた。非イスラム教に対するキャンペーンにより、この報告対象期間を通して、非イスラム教社会にかなり悪い状況が作られてきたと言える。

スンニ派イスラム教徒とキリスト教徒は、地方レベル、州レベル、国家レベルで宗教的差別とハラスメントを受けている。

バハーイー教徒は、職場において政府の課した差別に直面している。アバデーやその他の町にあるバハーイー教の墓地は何者かにより汚されているが、政府はその犯人を捕えて罰しようとしていない。

2009年を通して、全国のいくつかの都市で、バハーイー教徒が放火事件の標的にされたが、警察は、その犯人を見つけるために何も出来ないと語った。裁判待ちのバハーイー教徒は何十人もいる一方では、2009年と2010年には90日から数年の懲役刑の判決を受けた者が何人もいる。これら有罪判決のすべてが上告の過程にあると言われる。2010年3月には、少なくとも50人のバハーイー教徒の若者が国外旅行を禁じられた。彼等の中には、2006年にイラン南東部で恵まれない子供達を教えていたため1年から4年の禁固刑の判決を受けていた者もいる。

国外のバハーイー教グループは、バハーイー教の墓地の汚損被害、アバデーにあるバハーイー教の墓から掘り起こされた遺体に対する冒涇、およびナジャハバードにあるバハーイー教の墓地に対する襲撃の事件について報告している。

2009年2月、セムナーンにあるバハーイー教の墓地が汚損被害を受け、1月には、ガエムシャフルでもバハーイー教の墓が破壊された。

全国で、バハーイー教徒のさまざまな商業活動においても問題があると言われている。バハーイー教徒に対する個人的ハラスメントはエスカレートしている。手紙、コンパクトディスク、テキストメッセージ、パンフレットなどを使った脅迫を受けている。バハーイー教徒の子供が学校でいじめに遭い、イスラム教の洗脳を受けているというケースも報告されている。特に、バハーイー教徒の少女が、学生や教師の標的になっている。そこには、親子の間のテンションを作り出そうという意図もあるようである。

いくつかの宗教団体や人権団体が懸念しているのは、一時解散したホジャティエー団（Hojjatiyeh Society）の復活問題である。この団体は、十二イマーム（マフディー）の回帰を早めるためにバハーイー教信仰の国を排除することを目的として 1953 年に設立した宗教・経済秘密結社である。これは政府機関ではないが、行政府の多くのメンバーが Hojjatiyeh のメンバーでもあり、この団体の目指すゴールを達成するためにその地位を利用していると信じられている。しかしながら、この報告対象期間中にあった多くのバハーイー教徒の逮捕のケースにこの団体がどんな役割（あったとしてだが）を果たしたかは不明である。多くのバハーイー教系の人権団体と報道機関は、Hojjatiyeh Society のゴールは、バハーイー教徒自体の排除ではなくバハーイー教信仰の撲滅にあると言っている。この団体の反バハーイー教指向はさらに広がって、反スンニおよび反スーフィーの活動をも取り込んでいると言われている。

多くのユダヤ人は、報復を恐れて、イスラエル国家とコンタクトしたり支持したりすることを控えている。「イスラエル」と「シオニズム」のみを糾弾するこれまでのやり方と違って、反米デモや反イスラエルデモにユダヤ人非難が含まれるようになってきた。

この報告対象期間中、サービア・マンダ教徒のコミュニティが社会的差別とイスラム教への改宗の圧力を受けたと言う多くのケースの報告があった。

セクション IV 米国政府のポリシー

イランは、1999 年に初めて CPC に指定され、直近では 2009 年 1 月 16 日に再指定された。IRF 法の下でのアクションとして、国務長官は、武器輸出規制法第 40 条に基づく米国の安全保障支援における同法第 402 条（c）（5）項に則った現行の制限を指定している。米国は、イランと外交関係を結んでおらず、そのため、イラン政府が信教の自由に課している制約および宗教的少数派の信者に対してイラン政府が行っているその他の虐待について、直接イラン政府に問題提起することはない。

米国政府は、公式声明や報告書、国連関連機関および非政府組織の取り組みへの支援、およびイラン政府による虐待を終わらせることを強く求める外交イニシアチブなどを通じてその立場を明確にしている。米国政府は、イランとバイラテラルな関係を持っている他の国に対して、そのようなつながりを活用してイラン政府に信教の自由と人権問題につき圧力をかけるよう要請している。

これまでに何度も、米国国務省の報道官がイランにおけるバハーイー教およびユダヤ教の各コミュニティの現状を取り上げてきた。米国政府は、国連決議において、バハーイー教徒の処遇を公式に非難してきた。米国政府は、他の国の政府にも同様の声明を発表するよう働きかけてきた。

2010年2月、米国と欧州連合は、イランで行われている人権侵害を非難し、イラン政府に対して、国際的な人権に関する義務を果たすよう要求した。同じく2月に、米国政府は、人権問題の最高責任者のマイケル・ポズナ副長官を、イランに対する普遍的定期審査（UPR）の代表団団長としてイランに送った。

2010年2月のイランに対するUPRの中で、米国政府は、人権理事会のメンバーとして、イランにおける信教の自由に係る状況に懸念を表し、イラン政府に対し、信仰の自由を保証する憲法の規定を守るよう勧告した。UPRに応じて、イラン政府は、バハーイー教徒に対する一切の差別を否定した。

2009年12月、7年連続で採択されている決議の7年目として、米国政府は、イランで行われている人権侵害を非難する国連安全保障理事会決議案を共同提案し、決議の採択（賛成74、反対48、欠席59）を支持した。

[トップに戻る](#)